

全酪連会報 7

2018 JUL No.634

酪農とのかけはし／**鮫島寛明さん**

父の日に牛乳を贈ろう!

第45回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

酪農部だより／改正畜安法について

酪政連活動報告

人事異動

酪農トピックス／日本酪政連東北ブロック協議会が要請

自由民主党東北酪政会にて（仙台）ほか

日本酪農見て歩紀／佐藤牧場 秋田県鹿角市



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第14回 株式会社九州日新

牧草も食品だ!!

鮫島 寛明さん

年齢: 31歳

お住まい: 福岡県在住

略歴: 宮崎県延岡市出身。(株)九州日新に平成20年入社、営業第一部 那の津事業所に配属。現在、主に輸入粗飼料の受入業務を担当されています。
趣味は魚釣りです。

輸入粗飼料の受入・流通をはじめとする輸出入ならびに倉庫業務を行う株式会社九州日新の鮫島寛明さんにインタビューさせて頂きました。

私の職場紹介

福岡市中央区の須崎ふ頭の中に位置しており、約5,000坪の倉庫



▲ 鮫島 寛明さん

にて粗飼料や自主流通米を中心とした入出庫・保管業務を行っています。人数は約15名。平均年齢42歳と少し高めですが、明るい笑いの絶えない職場です。

この職業に携わるようになった理由・就職までの道のり・やりがい

入社当時は雑貨等を取り扱う別の部署でしたが、1年後に現在の営業第一部に配属され、輸入粗飼料の受入業務を担当することとなりました。最初は牧草の種類すら区別出来ない状態でしたが、当時の全酪連福岡支

所の粗飼料担当である伊尾副審査役(現・株ゼン・トレーディング営業部長)に二から教えてもらい現在に至ります。

「自身の仕事と酪農とのかわり」

今から5年前に北米に海外視察研修で行くこととなり、そこで現地の圃場・工場を見学する機会をいただきました。現地の圃場のスケールや乾燥工程などをその場で見させて頂く非常に貴重な経験でした。そして酪農家はこの粗飼料をどう給餌しているかに興味を持ち、全酪連福岡支所の工藤支所長にお

願いして今から2年前に熊本県合志市の後藤牧場で1週間、住み込みで実習する機会を頂くことができました。牛に触るのは初めての経験でし



▲ 九州日新営業第一部の皆様
左から相浦次長・重信さん・吉森さん・坂本さん・鮫島さん

鮫島 寛明さんの 1日のタイムスケジュール

8:30 ▶	始 業
8:40 ▶	メールチェック
9:00 ▶	輸入書類の確認・通関、 植検手配
10:00 ▶	植検立合
12:00 ▶	昼 食
13:00 ▶	顧客対応
15:00 ▶	全酪連福岡支所へ訪問。 植検サンプルとともに 検品内容を報告
16:00 ▶	翌日出荷予定の伝票作成、 書類整理
17:30 ▶	業務終了

全国の酪農家に 一言！

いつもおいしい牛乳をありがとうございます。
今後とも酪農産業に関わる者として、貢献出
来るよう頑張っていきますので、どうぞよろ
しくお願いします。



この仕事をするまで牧草はただの
草とは思っていませんでしたが、

鮫島さんの粗飼料へのこだわりとは？

たが、普段私たちが受入検品してい
る牧草を牛が目の前で実際に食べて
いる姿を見て、感動したことを今で
も鮮明に覚えています。

様々な経験を通じ、牧草は牛が食べ
てそれが牛乳となり皆さんの食卓
に届けられることを知り、牧草は、
食品と同じ口に入るものとして見
なければと思うようになりました。
日々の植検では色や見た目、匂いや
固さ、茎の太さ、粘り、カビや虫の
有無まで丁寧に観察し、その情報を

全酪連に伝えていきます。その基本と
なる植検はとても重要な業務だと感
じています。
そして、コンテナヤードや入船の
状況などの情報も全酪連の粗飼料
担当職員と日々やりとりをしてい
ます。そうしたことで、安定供給
と保管コストの軽減を両立させ酪
農家に貢献できるよう取り組んで
います。

ご自身の今後の目標

全酪連福岡支所と一体となって九
州の酪農家の皆様に安全・安心かつ
高品質な粗飼料を届け続けられる
よう微力ではありますがこれからも
全力を注いでいきたいです。





父の日に

牛乳

今年も
全国各地キャンペーンを
実施!

を贈ろう!

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳^{ちち}を贈ろう! キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年は4月末～父の日である6月17日(日)を中心に、地域の特色に合わせた活動を全国で展開しました。

今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道

▼ 哺乳瓶の大きさとミルクの温度を実感



▲ 牛のごはんだよ



▲ 牛乳とミルメークをプレゼント

北海道酪農青年女性会議は、5月下旬～6月上旬にかけて、道内3カ所の保育園・幼稚園を訪問しました。今年も牛と牛乳に関するクイズをおこない、答えに合わせて、牛の体の仕組みや牛乳ができるまでをイラストや実際の子牛用哺乳瓶、サイレージ、ミルカーなどを使ってわかりやすく説明しました。人間用の哺乳瓶を使うと思っていた子は、大きな哺乳瓶にびっくり。また、牛が食べているサイレージのにおいを嗅ぐと、「くさーい」と言った声もあがりました。質問コーナーでは園児たちから「牛乳はどうして白いの?」「牛は何人家族?」と言った素朴で難しい質問があがり、参加した委員は子どもたちに分かりやすいように言葉を選びながら一生懸命説明しました。

例年札幌近郊の園で開催していましたが、今年は委員の協力で初めて道東地域でも開催することができました。

●8020健康フェスタで父乳キャンペーン

6月3日(日)岩手県歯科医師会で消費拡大PRを行いました。

岩中酪青年女性会議は、6月3日(日)に岩手県歯科医師会主催の「第13回8020健康フェスタ」のイベント内で、父の日に乳を贈ろうキャンペーンを行いました。多くの親子連れが来場しました。



岩手

福島

●愛情館で牛乳乳製品のPR

福島県酪農青年研究連盟は、6月1日(金)に福島県農林水産部を訪問し、牛乳の消費拡大PRを行いました。関係担当官らとともに牛乳で乾杯し、来年の福島県ホルスタインショーが50回目を迎えるにあたり、県に協力要請をし、来場者増に向けて多くの方が興味を持つ内容を企画中であることを伝えていました。

また、6月12日(火)には、中島村立吉子川小学校において1～2年生を対象に、父の日キャンペーンとして子

牛とのふれあい、バター作り体験、酪農の話を行ってきました。子供たちは普段見慣れない子牛に興味津々で、配布された似顔絵用紙には子供たちが思い思いに『大切な人』を描き、ミルメークを持ち帰りました。



▲ もももスクール

▼ 福島県庁訪問



茨城

茨城県酪農青年女性会議

は、4月29日(日)「いばキャラ祭り2018inイオンタウン水戸南」に参加し、父の日キャンペーンのグッズなどを配布して、PR活動を展開しました。



▲ いばキャラ祭りにて

●ミルクランドモウモウフェスティバルで消費者交流

6月23日(土)、山形ミルクランドモウモウフェスティバルが開催され、山形県酪農青年婦人会議はミルメークの配布や、青年部主体のトラクター展示、福引、バルーンドーム、ロールにお絵かきなど消費者交流を行いました。来場者にはミルメークを配布し、父の日に乳を贈ろうと消費拡大を呼びかけていました。



▶ わくわく抽選会

山形

栃木県酪農青年女性会議は、6月3日(日)県内の道の駅など7ヶ所で、一斉に父の日キャンペーンのPR活動を展開しました。県産牛乳の試飲会やキャンペーングッズの配布を行い、消費拡大を呼びかけました。



▶ 道の駅思川にて

栃木県酪農青年女性会議は、6月14日(木)県知事・農政部長を表敬訪問し、県産牛乳を贈呈して牛乳消費拡大活動への理解と支援を要請しました。



▶ 栃木県知事との記念撮影

栃木

新潟

新潟みらい農業協同組合は、6月23日(土)・24日(日)の両日、同組合の直売所「いっぺこ〜と」において、ミルメークを配布しPR活動を行いました。両日とも2,500人近くの人出で大盛況でした。



▶ 「いっぺこ〜と」にて

佐渡ホルスタイン改良同志会は、6月17日(日)(株)佐渡乳業主催の「飲まんかさ・食べんかさ祭」に参加し、ミルメークを配布して牛乳・乳製品の消費拡大を呼びかけました。牛乳の飲み比べやチーズを利用した料理の試食なども行いました。



▶ チーズ料理試食



埼玉酪農業協同組合は、6月10日(日)バラが満開の熊谷市「道の駅めぬまアグリパーク」において、「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンのPR活動を行いました。

小雨の天気でしたが、多くの来場者にミルメークなどを配布し、また牛乳の栄養や機能性などを紹介しました。

埼玉

三重

●三重県知事への牛乳贈呈

三重県酪農青年女性会議（堀山静代委員長）は6月11日(月)に三重県庁を訪問し、鈴木英敬知事に県産の牛乳・乳製品の贈呈を行いました。

堀山委員長からは県内の酪農家が毎日牛の世話をし搾った新鮮な牛乳を毎日飲んで頂くよう消費拡大のアピールを行い、全員で牛乳で乾杯を行いました。



●「愛知県たいせつな人へのメッセージコンテスト」開催

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）は子供からたいせつな人へのメッセージコンテストを開催しました。県内外から550通に及ぶ応募があり、優秀作品に選ばれた20家族に乳製品を贈呈しました。そのうち3戸を6月16日(土)に部員が訪問し、子供からたいせつな人（お父さん）へ感謝のこもったメッセージを読んでもいただきました。また同時に一緒に牛乳をもっと飲んでもらう様アピールしました。



愛知

東海

●東海農政局幹部への牛乳贈呈

中部酪農青年女性会議（小笠原和美委員長）は、6月13日(水)に東海農政局を訪問し、河内幸男東海農支局次長に牛乳を贈呈し、牛乳の消費拡大のPRを行いました。

東海農政局からも「女性、青年の酪農家の方々がしっかり頑張っているの、牛乳の消費拡大、酪農振興を応援していきたい」との挨拶の後、全員で牛乳瓶で乾杯を行い、牛乳の消費拡大の意見交換を行いました。



●岐阜県知事へ牛乳贈呈

岐阜県酪農青年女性会議（宮垣俊介委員長）は6月14日(木)に岐阜県庁を訪問し、古田肇知事への牛乳贈呈を行いました。牛乳の消費拡大をアピールすると共に、県内の酪農情勢などについて意見交換を行いました。



岐阜

岡山

JR岡山駅前で酪農業の現状を説明したリーフレットとミルメークアソートを配布、牛乳をPRしました。

▶ リーフレットとミルメークアソートの配布



県庁を訪問し、伊原木県知事に県産牛乳と乳製品を贈呈しました。また、安心しておいしい牛乳を届けるため努力するので引き続きの支援を依頼しました。



▲ 伊原木岡山県知事を囲んで

山口

下関市の清流館で小学生40名参加のもとふれあい牧場を開設しました。聴診器で子牛の心臓の音を聞いたり、ペットボトルでのバター作りや搾乳ゲームを行い、また、酪農家のお話も聞いてもらいました。その後、ミルメークアソートの配布活動を行いました。



▲ うまくできるかな?!

▼ 酪農家さんのお話し!!



▲ 中村愛媛県知事を囲んで

県庁を訪問し、お父さんの代表として中村県知事に県産牛乳と乳製品を贈呈しました。「牛乳を美味しく飲んでもらうため頑張って生産します。」とPRするとともに、県下65の小学校で食育教育を11年に亘り実施していることを報告しました。知事からは「県産牛乳を是非愛飲してほしい。」と多くのマスコミ関係者にアピールされました。

愛媛

鳥取

●大山乳業農協女性部・青年部

開催日：6月4日(月) (鳥取県庁)

内 容：県庁を訪問し、平井県知事と牛乳で乾杯、乳製品を贈呈しました。また、良質乳生産のためのこだわりを説明し、消費拡大の協力を要請しました。



▼ 平井鳥取県知事を囲んで



▲ 大山パープル店でのPR活動

開催日：6月16日(土) (鳥取県内量販店)

内 容：県産牛乳などのPR活動を展開

開催日：6月17日(日) (イベント会場)

内 容：県産牛乳などのPR活動を展開

開催日：6月23日(土) (イベント会場)

内 容：県産牛乳などのPR活動を展開



▲ らくのうかあちゃん牛乳アレンジ料理

▼ 湯崎広島県知事を囲んで



●広酪メンバーズクラブ

開催日：6月19日(火)

(広島県庁)

広島県庁にて、知事、教育長、農林水産局長へ牛乳月間において、牛乳アレンジ料理で、牛乳普及のPRを行いました。

広島

佐賀

佐賀県酪農婦人部連絡協議会JAグループ佐賀畜産振興協議会は6月1日(金)牛乳の日に、就学前の園児に栄養豊富な牛乳を飲んで健康で元気になるとうと、川上保育園園児へ牛乳を贈りました。また、11日(月)に佐志保育園、大良分園の3ヶ所に贈呈しました。園児の保護者向けにはリーフレット等を配布し、多様な牛乳の効能についてPRを行いました。

尚、牛乳は来年の3月まで10ヶ月間、月2回継続して届けます。

▼ 佐賀市「川上保育園」にて牛乳贈呈



▼ 佐賀市大和町「川上保育園」6月1日 元気もりもり! 「牛乳で乾杯!!」



▲ 唐津市「佐志保育園」 たくさんの牛乳ありがとう!



▲ 佐賀市「川上保育園」乳牛に扮し、寸劇で園児にPR

●熊本県庁・九州農政局にて牛乳贈呈式

熊本県酪農女性部協議会の役員の皆さんが、県庁と九州農政局を訪問し、県民のお父さんでもある県知事や農政局長をはじめとした、関係機関の皆様へ、日頃の感謝の気持ちを込めてギフト用ビン牛乳をプレゼントしました。



●ゆめタウン光の森にて牛乳試飲会

ちちの日キャンペーンのPR活動と牛乳の消費拡大活動として、ゆめタウン光の森にて牛乳試飲会を行いました。当日は、熊本県産の牛乳をおいしく飲んで頂けたと思います！



宮崎県酪農青年女性連絡協議会は、6月6日(水)、宮崎県庁にて県知事・副知事・農政水産部長・畜産新生推進局へ牛乳・乳製品を贈呈し、今年度の「父の日」に牛乳を贈ろう!キャンペーン」としての消費拡大運動を実施しました。

6月1日(金)に就任された大山会長は、「全国的に酪農家が減少してきているなか、宮崎の酪農の火を消さないために努力したい。また、2年後の全国ホルスタイン共進会に向けて、しっかり活動していきたい。」と

話されました。

河野知事は牛乳を試飲され「とてもおいしい!酪農家の減少については非常に気がかりです。牛乳は体にも良く需要も高いのでスポーツイベント等でしっかり広めていきたい。」と話されました。

その後、同協議会の新役員の方たちと共に、知事と会談されました。

これからも「父の日には牛乳」と定着できるよう活発な活動を実施していきます。



▲ 郡司副知事への贈呈式

▼ 中田農政水産部長への贈呈式



▲ 宮崎県河野知事への贈呈式

大分県酪農青年女性会議は、6月10日(日)に大分市にある商業施設「パークプレイス大分」にて、バター作り体験を20名づつ3回に分けて行いました。あいにくの悪天候でしたが、60枚あった整理券はあっという間に無くなり、たくさんの親子連れで賑わっていました。自分たちで作ったバターを嬉しそう

に食べている子供たちの笑顔がとても印象的でした。

バター作り体験の他には、リーフレットと牛乳の配布も行い、牛乳をPRできる機会を設けることができました。

また、当日は地元のテレビ局も取材に来ていただき、当日の夕方のニュースに消費拡大イベントとして取り上げていただきました。



▲ バター作り体験の様子



▼ 手作りバターを美味しそうに食べる子供達



▲ リーフレット・牛乳の配布

鹿児島

●本所青壮年部・女性部

開催日：6月4日(月) (つばき幼稚園)
内 容：子牛との触れ合い体験、
バター作り体験、ツール配布、
似顔絵作成等

●大隅支所青年女性会議

開催日：6月7日(木) (鹿屋市役所)
内 容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

●鹿児島県青壮年女性会議

開催日：6月8日(金) (鹿児島県庁)
内 容：県知事へ牛乳・乳製品の贈呈

●種子島支所青年部・女性部

開催日：6月13日(水) (種子島)
内 容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈

●種子島支所青年部・女性部

開催日：6月15日(金) (種子島)
内 容：町長へ牛乳・乳製品の贈呈

●志布志支所青年部女性部・曾於市酪農振興会

開催日：6月15日(金) (道の駅末吉)
内 容：牛乳・ミルメークの配布

●霧島市酪農振興会女性部

開催日：6月18日(月) (霧島市役所)
内 容：市長へ牛乳・乳製品の贈呈、試飲



▶ 県知事訪問



●長崎県酪農青年女性会議役員、会員

開催日：6月8日(金) (長崎県庁)
内 容：副知事、農林部長、畜産課長への牛乳・乳製品の贈呈、
一般来庁者並びに県職員への牛乳試飲、ツール配布。

開催日：6月10日(日) (雲仙市小浜町)

内 容：ジャカラングまつりの来訪者への牛乳・乳製品の試飲・試食。
ツールの配布。

●長崎県酪農青年女性会議役員

開催日：6月16日(土) (諫早市)
内 容：約80名の地元保育園の園児を対象に、酪農の仕事の説明、
ツールの配布、ヨーグルトの配布。

長 崎

●久留米支所

開催日：6月7日(木) (甘木市役所)
内 容：市長へ牛乳贈呈

開催日：6月7日(木) (筑前町役場)
内 容：町長へ牛乳贈呈

開催日：6月8日(金) (よらん野)
内 容：牛乳、グッズの配布

開催日：6月17日(日) (甘木イオン)
内 容：ツール配布

●福岡支所

開催日：6月16日(土) (伊都菜彩)
内 容：ツール配布

開催日：6月17日(日) (ラッペピアソコ)
内 容：直売所にてツール配布

●飯塚支所

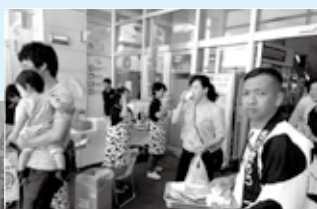
開催日：6月13日(水) (久保牧場)
内 容：ツール配布

開催日：6月15日(金) (市町村)
内 容：町長へ牛乳贈呈



福 岡

沖 縄



●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

開催日：6月10日(日) (イオン南風原店)
内 容：似顔絵コーナー、牛乳・ソフトクリーム無料試飲

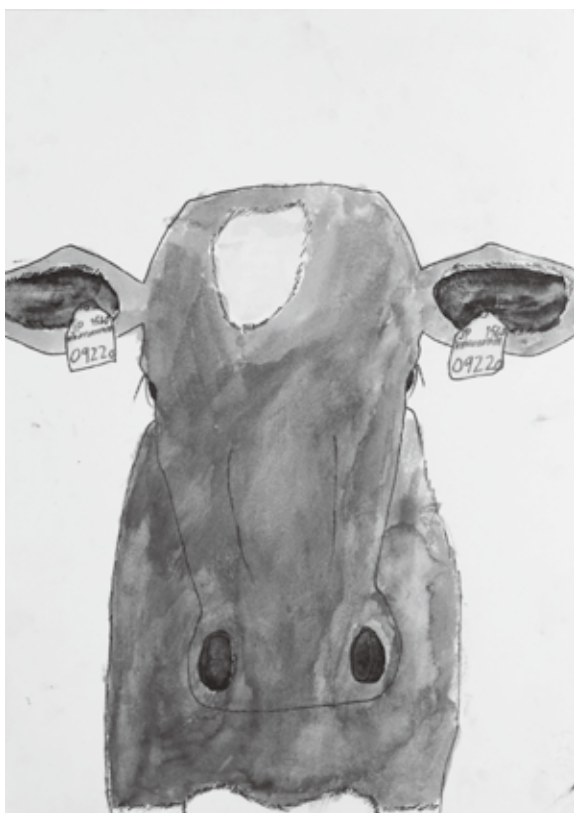
開催日：6月11日(月) (沖縄県庁)
内 容：沖縄県副知事へ県産牛乳・ミルク杏仁豆腐の贈呈

第45回

らくのう こどもギャラリー

入賞作品紹介

特選



「声がでかい牛」

岡崎市立豊富小学校(中部)3年
三浦 葉

真正面から牛さんを描いた作品です。睨んでいるような牛さんの表情は堂々としていて迫力があります。サインペンで線描きをしてから水彩の黒を使い力強いタッチで勢いよく一気に描いています。牛さんの存在感が表現できていてシンプルな構図ながら緊張感のある画面に仕上がっています。

●全体の作品について

今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございます。総応募点数は833点で、昨年と比べ113点多い応募になりました。その中から12点の入賞作品を選出させていただきました。

今年の応募作品は牛をよく観察してその性格までも描き出しているような凄みのある作品が多くありました。出品作品のレベルが高く今回惜しくも入賞を逃してしまった作品にも秀作がたくさんありました。

特選は、三浦葉さんの「声がでかい牛」に決まりました。この作品には画像や印刷物では伝わらない迫力があります。実物を目の前にして初めてその真の魅力に触れることのできる作品と言えるでしょう。入選1は船山菜翔さんの「おとなしい牛」。卓越した描写で丁寧に描かれた作品です。入選2は廣谷優衣さんの「うし」。力強いタッチと独特のフォルムが印象的な作品です。その他の入賞した作品もそれぞれ個性的であり大人には描けない自由な表現となっていました。作品に添えられた題名にもオリジナリティ溢れる豊かな感性を感じました。

「らくのうこどもギャラリー」に応募する作品を制作する経験を通して子供達が酪農の仕事に触れ、描く喜びを感じてくれる機会になってくれればと思っています。

最後になりましたが、第45回らくのうこどもギャラリーに応募してくださった皆様、作品制作に協力していただいた酪農家の皆様、ご指導いただいた先生方、そして関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

宮島 径／写真家
(みやじま・けい)



1967年 長野県生まれ。
1991年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年 デーリイマン写真部入社
1997年 フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年 「surface」(PLACE M. 東京)
2006年 「世界のしくみ」 featuring 麻里布栄 (PLACE M. 東京)
2010年 「日照時間／The Daylight Hours」 (ギャラリー蒼穹舎、東京)
2016年 「One Another」 (喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京)

浅野 智／美術家
(あさの・さとし)

1964年 神奈川生まれ
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 (油画) 修士課程 修了
2000年 第11回 関口芸術基金賞 優秀賞
2001年 第12回 関口芸術基金賞 大賞
2016年 第1回 札幌国際芸術賞 協賛賞
2017年 文化庁 文化芸術推進事業 ドローイングの現在 NPO 法人withART 代表理事



入選2

「うし」

岡崎市立緑丘小学校(中部)1年

廣谷 優衣

キリンさんのような長い顔がなんとも魅力的な牛さんです。背景は一見雑に見えますが、下地に濃い青を置き、上に明るい青を入れることで深みのある絵に仕上がっています。力強いクレヨンの線も元気よく、楽しさが伝わってきます。



入選1

「おとなしい牛」

那須塩原市立青木小学校(関甲信)5年

船山 菜翔

3年前に秀作をとった船山さんの作品が、入選作品のトップです。前回同様に斜め前から描かれた牛さんは立体感があり、今回は更に堂々と凛々しい牛さんに仕上がっています。成長の片鱗がうかがえます。同じ黒い色でも顔や首や横腹など筆のタッチを細かく使い分けてカッコいい牛さんが描けています。



入選4

「古代の酪農家」

赤磐市立山陽小学校(西日本)6年

大森 林吾

絵の具で塗り尽くされた画面は固くずっしりと重たく、牛さんの輪郭線は木炭で描いたようにかすれているところが、大昔のラスコーの壁画のようです。絵の完成度は申し分なく技量に優れた作品です。次作は自分を押し出した作品も見たいですね。



入選3

「ずっといっしょだよ」

那須町立田代友愛小学校(関甲信)3年

小森 遥香

柔らかな緑色の背景に沢山の色とりどりの花を描きこんで牛さんに頬っぺたを舐められた時の驚きや嬉しさ、くすぐったいような喜びなどの心情をよく表現出来ています。水彩絵の具の扱いもとても上手です。濃淡を使って描いた牛さんの青い瞳の表現は秀逸です。



秀作2

「重なっでご飯を食べる牛」

柏崎市立北条小学校(関甲信)4年

大宗 天翔

可愛らしい体型の牛さんが2頭並んで食事をしている様子が微笑ましいですね。手前の黒っぽい牛さんの表現には違う色の絵の具を重ねて繊細な色を作り出しています。また白い牛さんの体にもしっかりと白い絵の具を塗っています。丁寧な描き方が温かみのある、優しさ溢れる画面を生み出しました。



秀作1

「ぼくを見る牛さん」

那須塩原市立青木小学校(関甲信)2年

大森 優希

遠景に山々があり、中景にトラクターや牛さんがいて、牧場のひろびろとした空間がうまく表現されています。耳を立てて興味津々にこちらをじっと見つめる牛さんの表情もうまく描けましたね。牛さんと目が合った時の大森さんの驚きが伝わってくる作品です。



ファミリー賞1

「元気いっぱいなウシ」

寄居町立折原小学校(関甲信)3年

若林 沙来

しっかりとした描写と様々な画材と技法で表現された作品。クレヨン、水彩絵の具、サインペン、色鉛筆、切り絵技法、にじみ技法など巧みに使って楽しさと賑やかさのある元気いっぱいを表現しています。この作品を観ると元気が貰えそうな楽しい作品です。



秀作3

「大きなおなかに赤ちゃん」

筑前町立中牟田小学校(九州)4年

湯浅 未来

おなかに赤ちゃんがいるお母さんの牛さんを描いた作品です。直線を使ってダイナミックに画面を構成しています。牛さんは細部までよく観察して描いています。顔に凛々しい眉毛を描いたことで、ほのぼのとした良い表情になりましたね。



あすなろ賞1

「うしさんにえさをあげたよ」

社会福祉法人 徳真会ほうとく保育園(東北)6歳
桑原 龍飛

白い雲が流れる青空を背景に、動物や植物やハチさんトリさんなどがバランスよく配置され、楽しさが伝わってくる作品です。更にこの絵の太陽や雲は、牛さんや人と同じく笑顔で描かれています。全体的に微笑ましい絵です。



ファミリー賞2

「ジャージー牛の子牛にミルクをあげたよ」

福島市立福島第一小学校(東北)4年
新田 ひより

牧場でのジャージー牛の子牛さんとの触れ合いがうまく表現できましたね。首を伸ばしてミルクをほしがる子牛さんからは生命力が伝わってきます。子牛さんたちそれぞれに個性が感じられ、心安らぐ絵ですね。柵を取り入れた構図も良いと思います。



あすなろ賞2

「かわいいうし」

北陽幼稚園(北海道)5歳
渡邊 航生

みどりの色画用紙にクレヨンで描いた作品。つぶらな瞳が印象的な本当に可愛い牛さんに描けました。尻尾の様子までしっかりと観察して描いています。顔の輪郭は黒いクレヨンで体の輪郭はページのクレヨンで描いています。画材を使い分けて丁寧に表現しています。

改正畜安法について

加工原料乳生産者補給金制度は、平成30年4月1日より従来の関連法規であった加工原料乳生産者補給金等暫定措置法（旧法律）から、畜産経営の安定に関する法律（改正畜安法）へ移行し、新たな制度としてスタートしました。今回、各立場からポイントとなる変更点を説明させていただきます。

畜安法改正における主な変更点

1 行政・指定生乳生産者団体側

●加工原料乳生産者補給金交付対象の変更

↓畜安法改正後は、「対象事業者」へ加工原料乳生産者補給金が交付されます。「対象事業者」は、年間販売計画の農林水産大臣への提出等が義務付けられています。平成30年度は加工原料乳向けの生産者補給金8・23円/kgが交付されます。

「対象事業者」には、下記の3つがあります

- (1) 第1号対象事業者…生乳を集めて乳業に販売する事業者
- (2) 第2号対象事業者…乳業に直接生乳を販売する生産者
- (3) 第3号対象事業者…乳製品を加工販売する生産者

※旧法律下では、農林水産大臣または都道府県知事から指定を受けた指定生乳生産者団体（全国10団体）のみが、加工原料乳向け乳量に対して加工原料乳生産者補給金の交付を受けることができました。

●集送乳調整金の新設（従来の加工原料乳補給金に組み込まれていたものを分離し）

↓「指定事業者」へ上記に加えて、加工向け乳量に応じて集送乳調整金

2 生産者側

●出荷先の選択が自由になり、二股出荷が可能

↓旧法律下では、3t以下/日の自家使用、または特色ある生乳を乳業者（日処理3t以下）へ直接販売する以外は、部分委託は認められていませんでした。つまり、左記を除き全量を指定生乳生産者団体へ出荷することが絶対条件だったのです。

●加工原料乳生産者補給金の受け取りについて

↓今回の改正にて、指定生乳生産者団体だけでなく、買取販売を行う第1号対象事業者、または生産者自身が第2号、第3号対象事業者になれば、加工原料乳向けの乳量に対して生産者補給金を受け取ることができます。旧法律下では、加工原料乳生産者補給金を受け取る手段は指定生乳生産者団体へ委託することが必須でした。

●集送乳調整金について

↓集送乳調整金を受け取るためには、「指定事業者」への出荷が必須であるため、「指定事業者」と認定されている指定生乳生産者団体へ出荷することが絶対条件となっています。

2・43円/kg（平成30年度）が交付されます。「指定事業者」は、第1号対象事業者のうち、集乳を拒否しない等の要件を満たす事業者が農林水産大臣または都道府県知事から指定を受けた事業者となります。「指定事業者」の要件

- (1) 委託又は売渡の申し出を拒まない

※ただし、生産者が短期間の取引や特定用途への生乳販売取引等を要求した場合（いわゆるいいとこ取り）は、拒むことが許されています。

- (2) 業務規程が法の基準に適合（集送乳経費の平準化等）していること

- (3) 申請にあたり添付書類を提出すること

※指定に係る地域内の全部又は大部分の区域から集送乳を行う見込みが現実であると認められることを証する書類等。

図1 平成30年度の対象・指定事業者について

1. 第1号対象事業者（生乳を集めて乳業に販売する事業者）

事業者名	指定事業者	交付対象数量
ホクレン農業協同組合連合会	○	2,984,158.6
サツラク農業協同組合		5,223.5
カネカ食品株式会社		1,250.0
株式会社MMJ		4,925.2
東北生乳販売農業協同組合連合会	○	56,929.8
関東生乳販売農業協同組合連合会	○	96,414.1
北陸酪農業協同組合連合会	○	1,494.2
東海酪農業協同組合連合会	○	16,781.6
近畿生乳販連農業協同組合連合会	○	1,677.4
中国生乳販売農業協同組合連合会	○	13,756.2
四国生乳販売農業協同組合連合会	○	2,540.0
九州生乳販売農業協同組合連合会	○	92,526.4
沖縄県酪農農業協同組合	○	32.7
合 計		3,277,709.7

2. 第2号対象事業者（乳業に直接生乳を販売する生産者）

55事業者

交付対象数量

合計 2,884.1t

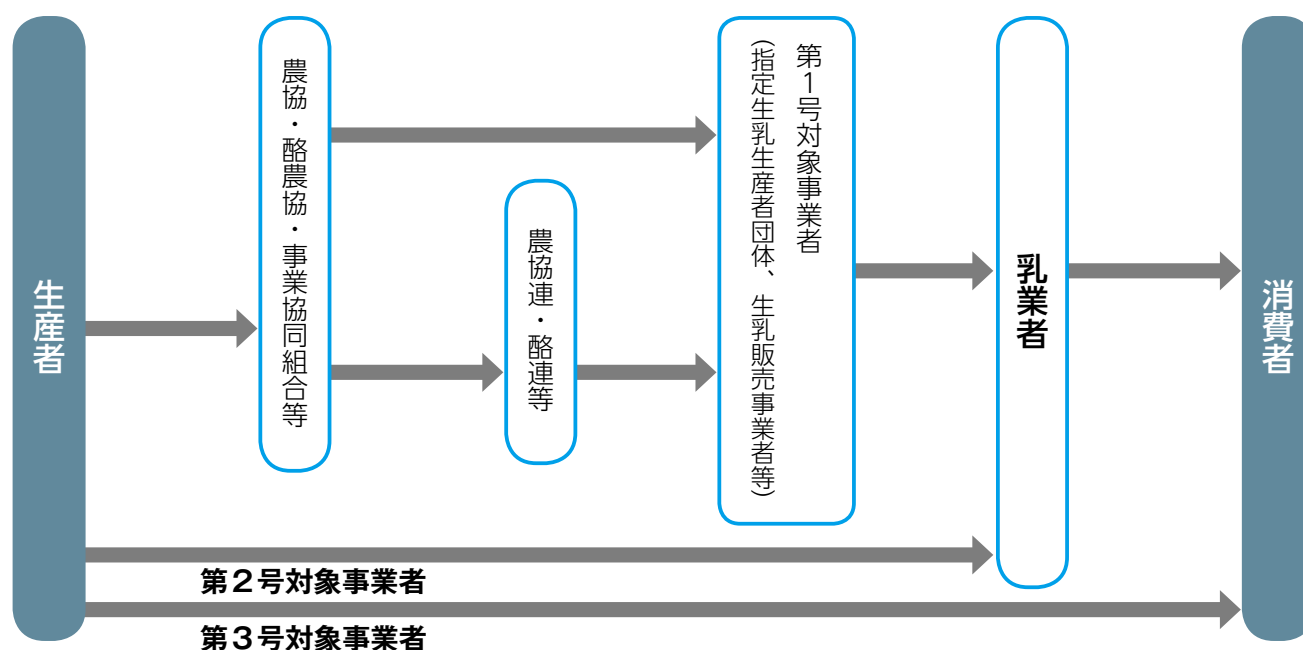
3. 第3号対象事業者（乳製品を加工販売する生産者）

22事業者

交付対象数量

合計 1,235.0t

図2 新制度における生乳流通イメージ



※参考資料：農水省ホームページより

日本酪農 見と歩 紀

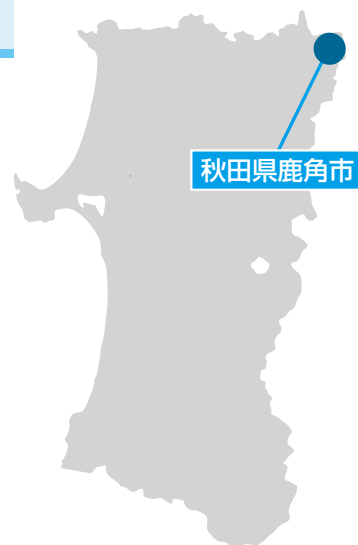
No. 302

佐藤牧場
秋田県鹿角市

花の咲く牧場で 牛は家族

地域の紹介

今回訪問した佐藤牧場がある秋田県鹿角市は、青森県、岩手県との県境に位置し、北は十和田湖付近の丘陵地から、南は八幡平の山岳地帯にあります。冬の寒さは厳しく、県内でも早い段階で降雪や積雪、真冬



秋田県鹿角市



▲ 左から、お父さんの佐藤博久さん、お母さんの啓子さん、ご本人の清さん



▲ ようこそ Ripen Farm Holstein へ

牧場の歴史

佐藤牧場は清さん（42才）で3代目。初代は山形出身ですが、戦後満州からの引き上げでこの地に入植しました。この辺りは、山形や新潟

日が観測される地域です。市の中心部からほど近い大湯温泉は、十和田湖に一番近い温泉地として有名で、800年の昔から大湯川沿いに自然湧出した豊富な湯が湧き、江戸時代にはこの地を治めていた南部藩の保養温泉地に指定されていました。また、鹿角市は、秋田名物であるきりたんぽ発祥の地といわれています。佐藤牧場が所属するあきた北部酪農農業協同組合（佐藤博久代表理事組合長）は、酪農家戸数15戸、生乳出荷数量3,638t（平成29年度）となっています。



などから多くの方が開拓に入ってきたそう、それぞれに6町歩ほどの土地が与えられて開拓を進めていたとのこと。佐藤家も、当初は鶏や豚などの家畜や、菜種などをいろいろ栽培しながら、昭和37年頃に周辺農家とほぼ同時に乳牛を導入し徐々にその数を増やし、現在総頭数が約70頭、うち搾乳牛43頭、乾乳牛7頭、育成牛20頭、和牛6頭を管理しています。

3人きょうだいの清さんは、周囲にも酪農家が多かった子供のころから『特に意識していたわけではな



▲ 花の咲く牧場

いけれど、きょうだいで男は自分1人だからという感覚はありましたかね」と、とわの森三愛高校に進学し、北海道文理科短大を卒業。その後、調理師の専門学校を卒業し札幌のホテルに就職しましたが、お父さん(博久さん68才)の大病もあり平成9年に就農しました。

『子どもの頃から牧場の手伝いをしていたので、搾乳や餌やりは何とかができましたが、父が不在の実家への就農当初は、機械が壊れても何がどこにあるのかすらわからない状況でした。畑作業にしても、播種はいづから始めればいいのか、その準備はいづからしなければいけないのかなど、年間を通じての一連の流れがわからない中で、近所の先輩や仲間

後継牛、粗飼料は自家産100%

に教えてもらい助けてもらいながら、最初の数年間は本当に大変でした。』と、当時を振り返っていました。

現在、搾乳はご両親が、哺育はお母さん(啓子さん、67才)が担当、その他の給餌などの牛舎仕事全般は清さんが担当し、畑作業は総出で行っています。



▲ 育成牛は、運動場で

『子どもの頃から牧場の手伝いをしていたので、搾乳や餌やりは何とかができましたが、父が不在の実家への就農当初は、機械が壊れても何がどこにあるのかすらわからない状況でした。畑作業にしても、播種はいづから始めればいいのか、その準備はいづからしなければいけないのかなど、年間を通じての一連の流れがわからない中で、近所の先輩や仲間

に教えてもらい助けてもらいながら、最初の数年間は本当に大変でした。』と、当時を振り返っていました。



▲ 自給飼料畑

的に出品していましたが、最近、乳量・乳質や牛舎施設に合ったサイズの牛づくりにシフトしてきているとのこと。過去からずっと自家育成でやっており、余ったメス子牛を販売することもあります。今、初妊牛価格の変動には大変驚いていながらも、一方で自家育成の重要性を再認識しています。

自給飼料畑は、借地を含めた66町歩ほどの草地でチモシーを作付けしています。通年給与をできる量が十分収穫でき、購入粗飼料はありません。余れば近隣の酪農家や肥育農家に販売をしています。過去にはデントコーンを10町歩ほど作付けし



▲ コテージのような堆肥舎

ていた時期もありましたが、3分の1以上をクマにやられた年があり、今は作っていません。

『ここは標高が比較的高く夏も涼で、チモシーがこの土地にあっていると感じます。刈り取り時期に気を付けていますからとても良い粗飼料ができています。堆肥は足りないぐらいで余ることはありません。化成肥料も使いながらにならないので、そろそろやらなければいけませんね。』と清さん。

若きリーダーとして

今暫くは、増頭せずに現状の規模で続けていこうと考えている清さん。増改築を重ねてきた繋ぎ牛舎ですが、繋ぎ牛舎のデメリットである「手間がかかる」はイコール「1頭1頭、手間をかけられる」というメリットがあると断言します。『繋ぎ牛舎は個体管理ができる。フリーストールではできないところ、これを大切にして、手間をかけることを億劫がらずに管理して牛群レベルを上げていきたいですね。』と清さんは語ります。

『この先、両親の手を期待できなくなつたときはこの規模が適切なのか、今高校生の息子が就農するのかにもよりますが、労働力と相談しながらになってきますね。近い将来の話かもしれませんが、周辺酪農家の廃業ペースを考えるとこの地域の酪農家も少数となり経営を続けていけるのか、地域や土地を守っていいのか。自分より若い世代が少ないことは少し寂しいですね。』と将来に若干の不安を感じつつも、清さんは改良同志会（あきたデイリークラブ）の会長も務めています。



▲ 搾乳牛舎

『県内の若い酪農家で組織しています。秋田県は、牧草の収穫時期が北部と南部で1ヶ月ほど差があるほどの大きな県ですから、皆で集まるのは年に2回程度しかできませんが、とても大切な機会だと思っています。飼養管理や自給飼料栽培などについて情報交換をしたり、ヘルパー利用に関しても、ヘルパー組織のない地域があつたりと同じ県内といっても条件は様々。100戸を下回った秋田県の酪農家はさらに減

少するでしょうが、そこに顔を出してくる者達には意欲を感じます。所属農協の枠を超えていろいろな話ができるので、これからも大切にしたいです。』と、地域のリーダーはもとより、県下の若手の牽引役である清さんでした。

終わりに

『就農当時の我が家の牛舎は汚くて、とても人に見せられるようなものではなかった。』という佐藤牧場。病気で仕事量を減らしたお父さんには環境整備を担当してもらい、おかげで人並み（？）の牛舎になり、その後は牛舎まわりや庭の整備も手掛けられ、今はとても美しい牧場です。酪農教育ファームの認定牧場として、忙しい中でも毎年多くの家庭や子供たちを受け入れ、食や仕事、命の大切さを伝えることにも積極的です。生産基盤をしっかりと維持し、将来にもしっかりと目を向ける佐藤牧場の繁栄を祈念します。

牧場の様子を公開中『秋田 佐藤牧場』で検索！

秋田 佐藤牧場

検索

仙 台
支所発日本酪政連東北ブロック協議会が要請
自由民主党東北酪政会にて

去る5月31日(木)、東北選出の自由民主党国会議員で構成される自由民主党東北酪政会（会長：鈴木俊一オリ・パラ担当大臣（岩手2区）。構成員数26名）の総会が、自民党本部にて開催されました。日本酪政連東北ブロック協議会（会長：柴田輝男秋田県酪農連盟会長）はこの総会に参加し、国会議員18名（代理出席含む）との意見交換を行いました。

東北ブロックの委員からは『高騰したままの後継牛価格では規模拡大どころか生産維持ができない。』現状を訴え、『現行の補助事業は規模拡大が必須。日本酪農の大半を占める家族型経営では、土地や糞尿処理、自給飼料確保などに制限があり現状規模で経営を継続せざるを得ない者も多い。それらへの支援は考えられないか。』など現行制度の見直しを求める意見が出されました。

集約型酪農経営に取り組む際にも、後継者がいることを要件としている制度に『後継者がいない酪農家も含めて共同経営体を作っていかなければ、生産基盤維持に繋がらない。』と訴え、堆肥処理関連では、『家畜排せつ物法の施行により建てられた堆肥処理施設は経年劣化し、昨冬の大雪で倒壊し使用不可となったものも多数出た。廃業を考える者もいる。』などと、支援の拡充を求めました。

また、原発事故からの復旧・復興に取り組んでいる福島からは、『除染のために表土を剥ぎ取った農地の地力再生のため堆肥の投入を行っているが、単年で完

了するものでは到底ない。地力が回復し、農業が再生してこそ地域の再生につながる。』と、農地の地力回復も含めた復興政策を求めました。

これらの意見に対し、出席議員は『東北はそう容易に規模拡大ができる地形的あるいは社会的な条件ではなく、家族経営が中心。そのような中でいかにコストを削減し少ない労働力で対応するかが課題だ（宮城選出議員）。』と共感し、福島に対しては『帰還をあきらめ別の場所で事業を始めた方がいる一方で、地元に戻ってきてがんばっている方々は意欲を持って燃えている。私からも支援をよろしく願いたい（福島選出議員）。』と、他の出席議員に賛同を求める場面も見られました。

同席していた農林水産省牛乳乳製品課の松本課長は、出された数々の意見・要請に対し、『畜産部全体で受け止めなければいけない課題、牛乳乳製品課で取り組むべき課題など様々出されたが、制度や事業は改善しながら対策を打つことで成果が上がっていくと考えており、きちんとやっていかなくてはと考える。』と述べました。

鈴木俊一会長は、『皆様が抱えている課題について詳しく話していただき、大変有意義な時間だった。今日の意見をもとに我々酪政会として一つの方向性を示していきたい。現場の声が一番であり、酪農がしっかり前に進めるよう我々も努力したい。』とし、閉会しました。(I.M)



▲ 自民党東北酪政会
鈴木俊一会長



▲ 議員（後列）に要請する酪政連会員



▲ 酪政会に要請する柴田会長（左）

東京
支所発

南信酪農業協同組合 「創立70周年記念式典」開催される

5月24日(木)、長野県松本市にて南信酪農業協同組合（柳澤宏代表理事組合長）の創立70周年記念式典が開催されました。

昭和23年4月創立の南信酪農業協同組合は、長野県で最も歴史のある酪農協であり、昭和30年代には7,500戸を超える組合員数を抱える国内最大規模の専門農協となりました。

総勢130名が出席した記念式典では、柳澤組合長より『県内外に先駆け多くの事業展開を実施してきましたが、実施に当たっては当時の役員・職員には多くの苦労があったと察し致します。70年間という長い間、組合の運営に協力頂いた乳業メーカーを始め各関係機

関、関係団体の皆様に感謝し、今後の南信酪農協の運営に携わる組合員に希望を託します。』と挨拶がありました。その後、組合功労者（前組合長岩岡房俊氏）、職員永年勤続者の表彰式が行われました。

祝賀会では、地元松本市のグループ鳴桜（なを）による和太鼓演奏、組合70年を振り返るスライドの上映、組合員対象のお楽しみ抽選会が行われました。抽選会では、各所から『当たったー!』の喜びの声が聞こえました。

組合の長い歴史を振り返ると同時に、沢山の笑顔が見られた記念式典となりました。南信酪農業協同組合の益々の発展をご祈念申し上げます。（N.T）



▲ 乾杯!!



▲ 柳澤組合長の挨拶



▲ 祝賀会を盛り上げる和太鼓演奏



▲ 組合員お楽しみ抽選会



▲ 南信酪農業協同組合70年史より

福岡
支所発

九州生乳販売農業協同組合連合会主催！ 「ハッピーミルクフェスタ2018」開催！

6月3日(日)、イオンモール福岡（福岡県糟屋郡粕屋町）「ウエストコート」にて、九州生乳販売農業協同組合連合会（尾形文清代表理事会長）主催の「九州 Love Milk Club presents FM福岡 ハッピーミルクフェスタ2018」が開催されました。

6月は国連食糧農業機関（FAO）により2001年に「世界牛乳の日」が提唱された牛乳月間でもあります。このイベントも、酪農に対する理解醸成と牛乳の消費拡大につなげることを目的として開催されました。

会場内ブースにおいては、等身大模型牛『くるみ&クルクル』親子による乳しぼり体験や、哺乳体験ブースの他、『牛さんのエサ』コーナーも設置され、会場内のコーナーをまわるスタンプラリーも用意されました。

また、会場ステージではFM福岡の公開録音も行われ、人気アーティストグループの「DEEP」によるステージイベントや、お笑いコンビ「ボルトボルズ」さんの「笑ってためになる！サイエンスショー」に会場は沸き立ちました。

そして、「牛乳ヒゲ」を競う「牛乳ヒゲコンテスト」、知ってるようで、実は知らない？牛乳の知識が試される「牛乳クイズ大会」には、訪れた多くの子供とその家族が参加して楽しいひとときを過ごしました。

九州の酪農や九州生まれのおいしい牛乳の魅力がギュ〜っとつまった年に一度このイベントに多くの地元酪農家も参加し、6月の牛乳月間のスタートを大いに盛り上げることができました。（M.A）



▲ 牛乳クイズコーナー



▲ 乳搾り体験コーナー



▲ 牛のエサコーナーには親子連れが興味津々



▲ 牛乳ヒゲの審査員も真剣そのもの



▲ 立派な牛乳ヒゲが出来るかな？



▲ 尾形会長のトークショーでは九州の酪農、九州生まれのおいしい牛乳の魅力がPRされました



▲ 牛乳のおいしさを伝えるPRタイムには多くの人だかり

大 阪
支所発中国三県購買担当者会
「平成29年度(第22年度)総会」並びに
「第36回合同研修会」を開催

去る6月19日(火)、中国三県購買担当者会(中村会長、山口県酪農生産振興課長)は、みよしまちづくりセンター(広島県三次市)において、「平成29年度(第22年度)総会」並びに「第36回合同研修会」を開催しました。

総会では、上程された第1号議案から第3号議案が原案通り承認可決され、平成30年度の主な活動は、合同研修会を3回、視察研修を1回開催することとなりました。また、第4号議案の「役員の改選

について」において、平成30年度の活動を執行する新たな役員が選出され、新会長には広島県酪農協の藏崎生産振興課長が就任されました。

その後、講師に日産合成工業(株)販売推進部関根課長と増田獣医師を招き、「暑熱時におけるビタミン・ミネラルの給与」と題して第36回合同研修会を開催しました。参加された購買担当者は、これから暑くなる時期でもあり熱心に聴講され、その後の質疑応答も活発に行われました。(K.I)



▲ 第36回研修会



▲ 総会開会の挨拶を述べる中村会長

酪農家経営管理支援システム(DMSシステム)

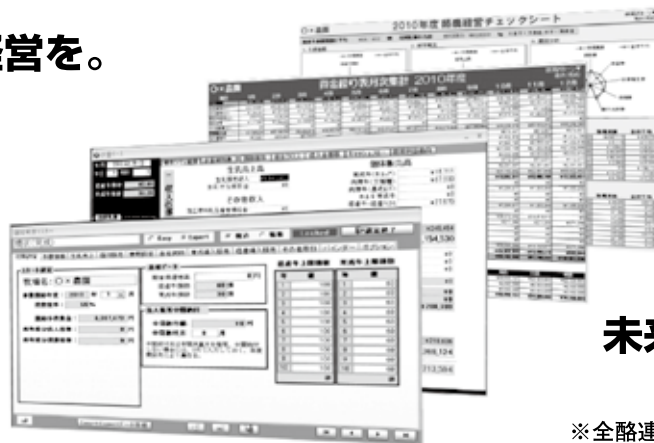
Dairy-farm Management Support System

SaaS

会計ソフト『e酪農経営』がインターネット上で使用できるようになり、
情報管理やQ&Aの効率が飛躍的に向上しました！

ぜひ、ご体験ください！

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは ①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 酪農生産指導室 TEL 03 (5931) 8007

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

平成 30 年 4 月～ 6 月

4/23

自民党志帥会政治パーティに出席
(於:ホテルニューオオタニ)
・大槻委員長、笛田幹事長 他

5/14

正・副委員長会議を開催(於:全理連ビル)
・平成 31 年度酪農政策・予算確保に関する要請
について
を協議

三役会議を開催(於:自由民主会館)

- ・常任・中央合同会議について
 - ・事務所の移転について
- を協議

常任・中央合同委員会を開催(於:自由民主会館)

- ・平成 31 年度酪農政策・予算確保に関する要請について
- を協議
その後ブロック別に要請活動を実施

5/31

東北酪政会が開催される(於:自由民主会館)

- ・東北の酪農の現状と課題について意見交換を実施



▲ 東北酪政会 鈴木俊一 会長

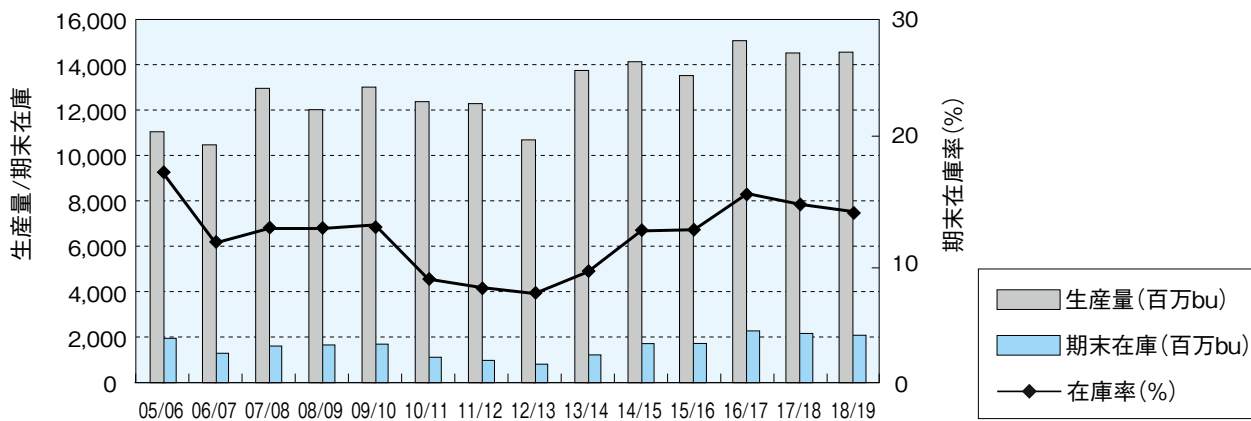


▲ 酪政連東北ブロック協議会
柴田会長

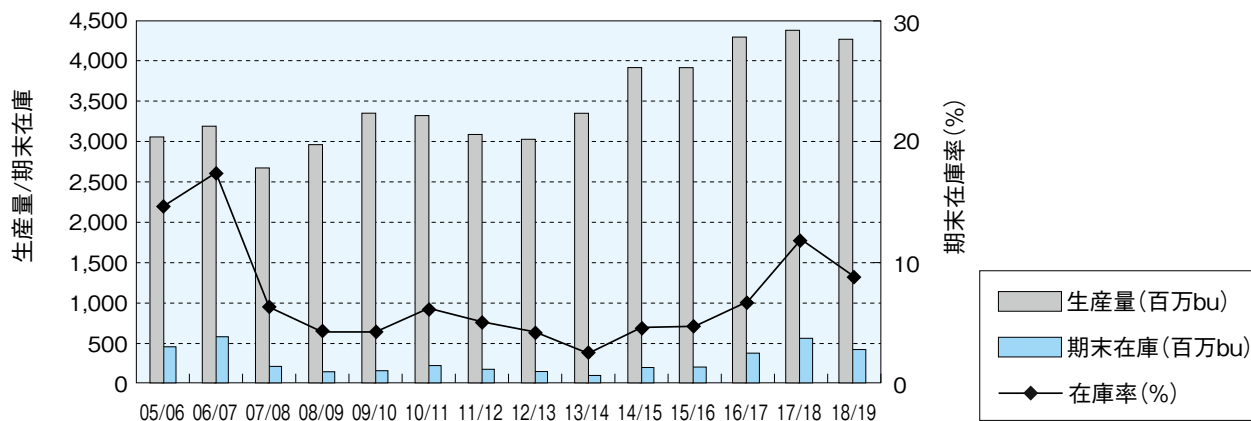


6月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		17/18年産	18/19年産
	作付面積(百万エーカー)	90.2	88.0
	単 収(ブッシェル/エーカー)	176.6	174.0
	生 産 量(ブッシェル)	146億400万	140億4,000万
	需 要 量(ブッシェル)	148億4,000万	146億1,500万
	期末在庫(ブッシェル)	21億200万	15億7,700万
	在 庫 率	14.2%	10.8%
トウモロコシ 相場動向	トウモロコシの作況は、優良の割合が、前年同時期を大きく上回っており、400セント前後でしばらく推移していた相場は、下落傾向となっている。しかしながら、作柄に大きく影響を与える受粉期を控えており、天候次第では、急騰する可能性がある。		
大豆粕相場動向	貿易戦争への懸念が再燃。7月上旬より中国は米国産大豆に追加関税を課すと発表し、米国産大豆の輸出需要が大幅に減少する見方からシカゴ定期市場は下落し、軟調に推移している。今年はこの問題で穀物は大きく上下すると思われる。		
糟糖類	【一般フスマ】 小麦粉値上げ前の引き取り需要の増加に伴い発生量も増加していたが、需要が堅調なため若干タイト感が出てきている。		
	【グルテンフィード】 国産品は発生量が増加しているが、輸入品が減少しているため需給は引き締まっている。他原料の需要が堅調なことからつられてグルテンフィードも堅調に推移している。		
海上運賃	パナマックス型市況は、大西洋水域では南米積み穀物輸送、太平洋水域は石炭輸送が活発なことから海上運賃は堅調に推移してゐる。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成30年6月

北米コンテナ船 フレート	北米西海岸発アジア向けの航路では、邦船3社のコンテナ輸送部門の統合に伴い、一部混乱が起きており、他船社へブッキングが集中しています。この影響で、特にバンクーバーやシアトル、タコマ出港分で遅延が散見され、ブッキングが集中しているいくつかの船社は、6月1日付のGRI（海上運賃一括値上げ）を実施しています。また、原油価格の上昇から、各船社、燃料コストも上昇しており新たなチャージを設定する動きが見られます。さらには、一部の船社では7月1日付のGRIを通知しており、今後、燃料コストも含めた海上運賃は上昇していく見込みです。
ビートパルプ	【米国産】新穀については、春先の低温や降雪の影響で予想よりも作付の開始が遅れましたが、その後の天候回復で持ち直し、5月末段階で日本向け主力のミネソタ州及びノースダコタ州ではほぼ作付を終えています。発芽や初期生育に必要な土中水分も適度にあり、作付を終えた現段階においては順調と言えます。作付面積は概ね昨年並みで、平均的なクロップを予想しています。今後は、生育期の天候に注目する必要があります。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地コロンビアベースンでは1番刈の収穫作業が後半を迎えています。コロンビアベースン南部では、早い時期に刈り取りしたものについては、湿度が高い時期であったことからブリーチや変色が見られるものが多く発生しているようです。それ以降のものは色目を重視し、刈り取りを遅らせたことから成分値が低い傾向にあるようです。コロンビアベースン中部では、刈り取り時期に好天が続いたため、見た目が良く、高い成分のものが多く発生しています。一方、北部では一部で雨あたりが発生しています。さらには、この降雨を避けた圃場の一部では、刈り遅れの傾向となっています。産地価格については、旧穀の在庫の繰り越しが少ないことに加え、PSW（米国西海岸南部）の価格上昇を受けて、昨年に比べ高値で取引が開始されています。
	【オレゴン州】オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈が始まったところで、現在進捗は10%ほどです。直近の天候が不安定なことから、収穫が本格化するのには天候回復後となる見込みです。作付面積に大きな変化はありません。中部クリスマスバレーでは、ごく一部の圃場で1番刈の収穫が始まっていますが、6月中旬から下旬にかけて本格化する見込みです。生育状況は例年通りで作付面積も前年並みと見られています。産地相場は収穫が始まったばかりで特筆すべき動きはありませんが、他産地の相場が軒並み上昇していることから、当地においても昨年に比べ高値でスタートするものと予想されます。
	【カリフォルニア州】カリフォルニア州南部インベリアルバレーでは3番刈が終盤を迎えています。現地では既に日中の最高気温が華氏110°F以上（摂氏43℃以上）まで上がっており、成分値が低い中級～低級品の発生が中心となっています。産地価格については、中東や中国の積極的な買付けにより、昨年に比べ高値での取引が続いていますが、今後は中級～低級品のアルファルファの発生が増えていることから、当初の相場よりも軟化してくる見込みです。
チモシー	【米国産】コロンビアベースンでは5月下旬から一部の圃場で収穫作業が開始されており、早いところではベアリング作業まで進んでいるところもあるようです。収穫は6月上旬から本格化する見込みです。エレンズバーク周辺においても、早い圃場では6月上旬から収穫が始まる見込みです。日本、韓国および中東からのチモシーの引き合いは引き続き堅調に推移しています。産地相場は、まだ形成されておりませんが、作付面積は17年産比で10%程度増加しており増産が予想されていることから、昨年と比べ軟化することが期待されます。
	【カナダ産】18年産については、南部レスブリッジ地区では17年産の産地相場が生産農家にとって満足できるレベルであったことから、穀類からチモシーへの転作が進み、作付面積は17年産比で10%程度増えているようです。中部クレモナ地区では、作付面積は前年並みと見込まれています。今冬から春にかけての気温は、例年並みからやや低かったようですが、新穀の収穫は例年並みの7月上旬～中旬以降に始まると予想されています。
スーダングラス	6月1日時点の作付面積は前年同月比115%となっています。小麦および野菜相場の低迷、休耕地プログラム終了に伴い、生産農家の作付意欲が増していることが要因と推測できます。新穀の収穫は例年並みの5月中旬から開始されており、5月末以降から本格化しています。産地相場については、生産量が増える見込みから、昨年よりも弱含んでくると予想されています。また、上級品に比べ中～低級品の発生量が増加する見込みであることから、上級品とそれ以外の価格差は例年よりも広がる可能性があります。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 5月15日時点の作付面積は前年同月比で133%となっており、増産が期待できる状況です。収穫は4月下旬より開始されており、すでに1番刈の収穫は終了し、現在は2番刈の収穫が進んでいます。1番刈の作柄は収穫期の天候にも恵まれたことから、良品の発生が中心となっています。2番刈以降の相場展開としては、収穫が進むにつれ供給力が増し、他の禾本科牧草も生産の最盛期に入ることから、相場は徐々に弱含んでくると予想できますが、今後の天候や日本・韓国の需要動向によっては、予想外の動きも十分考えられるため引き続き注視が必要と言えます。
ストロー類	日本および韓国からのストロー需要は引き続き堅調に推移しています。旧穀はすべて成約済みとなっています。堅調な需要と産地在庫はほぼ成約済みであることを背景に、産地価格は現行価格から下がることなく、新穀まで推移していく見込みです。新穀の状況ですが、今のところ天候等、生産に関して大きな問題は発生しておらず、例年通り7月上旬頃から収穫が始まる見込みとなっています。
オーツヘイ	【豪州産】産地では早くも4月下旬から18年産の作付けが始まっています。播種後に降雨がなく、乾燥した気候が続いたため初期段階での育成不良が心配されましたが、5月下旬以降に各産地でまとまった降雨があり、深刻な懸念は解消されています。作付面積は、東豪州および南豪州は17年産の相場が良かったことから前年並みとなる見通しです。西豪州については降雨被害の影響で17年産の相場が低迷したことから、大麦、小麦、菜種など、他の作物への転作も増えているようです。このため、18年産の作付面積については前年比で減少するものと予想されています。

新	旧	氏 名
■平成30年7月1日付兼務 全国酪農飼料(株)鳥栖工場長 兼 九州支店長 購買生産指導部付出向	全国酪農飼料(株)鳥栖工場長 購買生産指導部付出向	安 田 稔 高

出版のお知らせ

平成30年
4月発売

草地管理指標

— 草地の管理作業及び草地の採草利用編 —
(平成30年3月改定)

10年ぶりに改定しました



- A4版 約270頁
- 定価2,160円（税込み）

本書は既刊の草地管理指標－「草地の管理作業編・採草利用編」を内容も新たに編集しました。この1冊で草地の管理作業及び採草利用のすべてがわかります。

目次

第1編 草地の維持管理

- 第1章 草地管理・利用の基本
第2章 生産目標と適草種・品種の選定
第3章 適草種・品種選定に係わる要因

第2編 草地の採草利用

- 第1章 採草利用の基本
第2章 収穫作業
第3章 牧草サイレージの収穫・調製
第4章 乾草の調製利用

第3編 草地更新

- 第1章 草地更新の方法
- 第2章 雑草・雑かん木の制御

第4編 草地の保護管理

- 第1章 病害虫の制御
第2章 鳥獣害防除
第3章 低投入草地及び耕作放棄地等の草地化

お問い合わせ先



一般社団法人日本草地畜産種子協会

TEL:03(3251)6501 FAX:03(3251)6507
E-mail:info@souchi.lin.gr.jp



乳牛産地情報

平成30年7月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計102.1%、累計で101.0%、苫小牧管内月計で103.0%、累計で100.7%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月分娩予定の牛が中心となります。6月のこの地域の乳牛市場の平均が下がったことや、夏の輸送となることから、相場はやや弱含みで推移するものと思われます。F1腹や雌雄選別腹が購買の中心となります。乳量成績や体型審査成績を持った高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望があれば、お問い合わせください。育成牛につきましては、引き続き道内各地の育成農家を中心に購買をおこなっており、横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	78~88	⇐	
	経産牛	45~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で101.4%、中標津管内月計で101.8%、累計で101.7%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、10月分娩予定の牛が中心の動きとなります。6月の管内乳牛市場は上物とスソ物に価格差がついたことから弱含みとなりましたが、引き続き道内の大型牧場、規模拡大農家、新規就農農家向けの購買が見込まれることから相場は横這いで推移するものと思われます。資源状況としては比較的余裕があり、雌雄選別腹についてもご希望に添える状況となっております。経産牛については状態の良い牛の出回りは非常に少なく相場も高値を維持しております。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	60~70	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で105.1%、累計で104.2%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月~10月分娩予定の牛が中心となります。6月の同地域の乳牛市場がやや強含みで推移し、また7月の市場が下旬まで開催されないことから、庭先選畜購買も高値を維持した横這いで推移し、F1腹がメインで取引されるものと思われます。雌雄選別腹は6月の同地域の乳牛市場で出品頭数が少なく、高値をつけたことから、やや強含みとなることが予測されます。和牛受精卵移植腹も高値が続いていることから、110万円以上の取引となっています。経産牛も産歴の少ない牛は高値で取引されていますので、初妊牛同様横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	50~60	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.4%、累計で100.4%、北見管内では月計で102.9%、累計で101.6%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9~10月分娩の腹が中心の動きとなります。先月から夏時期の分娩牛の取引が中心ではありましたが導入需要は活発で、相場は大きくは下がりませんでした。この傾向は続く見込みで相場も横這いのまま推移するものと思われます。F1腹、雌雄選別腹共に頭数は出回っておりますが後継牛確保を目的とした需要の為、雌雄選別腹のほう引き合い強く、若干高値で推移するものと思われます。
	初妊牛	83~88	→	
	経産牛	50~60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~65	→	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は102.9%、累計で102.2%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月~10月分娩腹中心で取引されます。例年、都府県では残暑となる9月の分娩腹の導入意欲は低くなることから、価格的に下げる展開となります。しかし、道内酪農家の生乳生産意欲は旺盛となっていることまた、道内外の規模拡大需要も重なり初妊牛価格については、大きな変動はないものと思われます。初妊牛の資源状況と致しましては、平成29年度の道内各地域における育成牛市場での出品頭数(合計)が前年対比106%と大きく上回っていることから、今後の初妊牛の資源としては、授精腹により多少異なるものの、全体的に増えてくるものと予想されます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	55~65	→	

お詫びと訂正

本紙5月号(No.632)6~8頁、6月号(No.633)7~9頁に掲載しました「日本酪農見て歩紀」の連載回数表記に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

5月号(松崎牧場 北海道北見市)
6月号(谷口学牧場 京都府南丹市)

<誤> No.230 → <正> No.300
<誤> No.231 → <正> No.301

今月の表紙

今月の表紙は、「第8回酪農いきいきフォトコンテスト」(第46回全国発表大会にて開催)で応募頂いた作品「大きな〜れ!」(熊本県 蓮尾照代氏 撮影)です。



編集後記

- 梅雨が明け、一気に真夏の暑さ。日傘をさしている人を多く見かけます。
- さて、今年のらくのうこどもギャラリーに今年は全国から833点の応募をいただきました。厳正な審査の結果、選ばれた優秀作品12点をご紹介します。ご応募いただきました皆さまに心から感謝申し上げますとともに、来年もより多くの応募をお待ちしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成30年7月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 7月号 No.634

● 編集・発行人 川辺昭司

● 発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



特選

声がでかい牛

岡崎市立豊富小学校(中部)3年 三浦 葉

今月の入賞作品は…

岡崎市立豊富小学校(中部)3年の三浦 葉さんの作品です。

真正面から牛さんを描いた作品です。睨んでいるような牛さんの表情は堂々としていて迫力があります。サインペンで線描きをしてから水彩の黒を使い力強いタッチで勢いよく一気に描いています。牛さんの存在感が表現できていてシンプルな構図ながら緊張感のある画面に仕上がっています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第45回らくのうこどもギャラリー」で全国833点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議